

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291200063		
法人名	有限会社大東		
事業所名	グループホームほのぼの新館		
所在地	長崎県東彼杵郡東彼杵町平似田郷2342-1		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和5年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢の認知症の方がグループホームで共同生活をしていく上で、混乱を招くことがないように、今まで暮らして来られた家庭的な雰囲気や、馴染みのあるものを居室に置き安心した暮らしを送って頂くようスタッフも暖かい対応を心掛け、家族とも意思疎通を図りながら日々の支援に努めます。また、面会等も玄関内で直接家族と接する事が出来る様配慮し関係性を大切にします。天気の良い日などは入居者の体調を見ながらホーム周辺の散歩や季節に合わせドライブへ誘い気分転換を図れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和元年7月に開設したホームで、大村湾に面した国道沿いに位置している。広い敷地には季節を彩る花木を植樹し、入居者が散歩をしながら椿、桜、紅葉など鑑賞し、四季を感じてもらえるよう支援している。理念である「住み慣れた地域の中で利用者の思い、生き方を尊重し、笑顔のある暮らしを支援する。」を基に、家族のように和気あいあいとした雰囲気や、馴染みのある関係継続を大切にしている。管理者は自治会や消防団に参加し、入居者が地域と繋がりがりながら生活を続けられるようホーム自体が地域の一員として積極的に交流している。周囲には地域の小中学校や認定こども園があり、中学生の職場体験を受け入れたり、管理者が介護の研修講師を担うなど、地域との関わりを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームほのぼの新館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの暮らしに添った理念を玄関正面に掲げスタッフが入職時に目を通すよう意識付け、全ての職員が共有し実践に繋げている。	理念はホームの玄関に掲示し、職員は毎日黙読し、入居者への支援をホーム全体で取り組んでいる。毎月1回、スタッフ会議にて理念を基礎とした入居者一人ひとりの支援について協議し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主は同じ地域で住居を構えホームとも隣接しており地元消防団の活動や諸会合に参加し日常的に交流がある。	管理者がホーム所在地と同地域に在住しており、地域の消防団に参加したり、経営者が自治会に参加するなど、ホーム自体が地域の一員として受け入れられている。入居者が地域と繋がりがりながら暮らせるよう積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は地域活動を通じて家族の困り事や相談など気軽に話して貰えるよう意思疎通を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回行い、出席者に利用者の状況報告や行事報告、外部評価の取り組み等報告し頂いた意見はサービスに反映させている。	運営推進会議には町長寿保険課職員、民生委員、地域役員、家族代表、消防団員、ホーム代表、管理者などが参加している。2か月に1回開催し、ホームの支援状況や外部評価の報告、ヒヤリ・ハット、身体拘束適正化、避難訓練の様子などの取り組みを報告し、各委員より得られた意見をサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者から連絡を貰ったりこちらから担当者に尋ねたりと介護関係、健康増進係、地域包括支援等実情に合わせた連携を取っている。	同町の長寿保険課や、地域包括支援センターなどと日頃から連絡を密に取り、ホームの実情や支援状況など、取り組みを積極的に伝えながら地域の実情に応じた介護サービスを提供できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を勉強会(3か月に1回)を通じてスタッフ全員学び、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束適正化を目指し、指針やマニュアルを整備している。身体拘束適正化委員会を設置し、3か月毎に会議を開催している。入居者に対して身体拘束のないケアを目指し、身体拘束廃止について勉強会を開催しホーム全体で取り組んでいる。	ホームでは身体拘束を実施している入居者はいない。知識が曖昧な職員に対してはあらためて身体拘束の3原則(切迫性、非代替性、一時性)の理解を深めると共に全職員に再周知し取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について勉強会で資料を配布し職員は学び、又、見過ごさないよう注意を払い日々の介護に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する勉強会を定期的に行い制度に関する理解を深めると同時に対象者が入所された場合は必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時や解約、改定の際は家族へ文書を通じて十分な説明を行うと共に家族からの質問などを受けた場合は十分な説明を行い、理解納得の上締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や要望は日々の関わりの中で気軽に出してもらい又、家族へも意見や要望が出しやすい雰囲気づくりを心掛け、頂いた意見や要望は運営に反映させている。	家族が面会や利用料の支払いに訪れた際などに、職員よりホームに対する意見や要望がないかを声掛けして傾聴し、集められた意見や要望を可能な限り反映できるよう取り組んでいる。入居者からの意見や要望は、毎日の支援の中で聴き取り、反映するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議で職員からの意見や要望を聞き改善するべきところは改善していき働きやすい職場づくりを目指している。	代表者や管理者は、毎月1回開催するスタッフ会議や日々の支援の中で職員からの意見や提案をいつでも聞き入れており、ホームの運営に迅速に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとり一人の生活環境に合わせ希望休や有給休暇等、必要に応じ支給し向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じ研修を受ける機会を確保し、休日を利用して初任者研修を受講している職員もいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム交流会として管理者同士話し合う機会を持ち相互訪問や公共施設の相談室を借り受けて話し合いを行い、施設の改善やサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階では認知症の程度が軽い方は本人も家族と一緒に見学され、そこに昔なじみの知り合いの入所者がいて安心されたりと自然な形で関係づくりが出来ている事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約前に家族の困りごと等傾聴しホームで出来る支援のなどを説明することで関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される前段階で入所希望される方がグループホームの暮らしに支障がないかを見極め、共同生活が困難な方へは他のサービスも視野に入れた対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者が日々の暮らしに活気が出る様出来る事、食器拭きや洗濯物たたみ等簡単な家事を生活を一緒にする者同志として支援して関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナもほぼ終息し家族も面会を希望される事が増えて来て、電話で会話したり面会の折は玄関内にいすを並べゆっくり触れ合って頂くなど家族の思いを大切にした関係づくりに努めている。また、家族に日々の様子を伝え安心されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の恒例行事とした茶市が4年ぶりに開催され馴染みの場所や人が集まる事で希望者を連れて行き楽しんで頂き、お盆に墓参りに連れ出すなど馴染みの関係を構築している。	ホームでは「ふるさと訪問」と題して、入居者一人ひとりが訪れたいと思う場所(自宅、墓参りなど)に出かけており、入居者が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意思表示がはっきりした入居者とそうでない入居者との間に入り会話を取り持ち関わりが深まるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着のサービスの為同じ町内の一員としてこれまで気づいた関係性を大切に相談などの場合はその後の経過など伺いフォローや支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人の意向を聞き希望に応えるよう努力し意思疎通が困難な方へは家族とも相談するなどし、本人の立場に立った支援を心がけている。	入居者1人に対して1人の担当職員を定めて、入居者の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は家族より意見を聴取し、業務連絡ノートや個人日誌に記録してホーム職員全員で情報を共有し本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所契約時に家族や本人からこれまでの暮らしや今後の暮らし方など話し合いの場を通じて伺い、納得されて利用されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人のその日の体調に合わせ、出来る事を見極め生きがいをを持って取り組むことが出来る様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議の中で担当者を交えより良い暮らしの実現の為意見を出し合い、必要に応じて家族へも相談する等現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が入居者や家族の情報を集めて介護計画を作成している。介護計画案は計画作成担当者がホームの担当職員と協議した上で意見や要望を反映し、現状に即した介護計画を作成している。ホーム独自のケアプラン管理表を作成し、日々の支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の勤務者でケアの実践や気づきを個別記録に記入し、夜勤者は夜間帯の記録や気づきを記入し又、一日を通したケアプラン管理表も活用し情報の共有、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナも収束したことで敬老会を新館、本館合同で行った。入所者の中には幼馴染だと話される方もおられいつも以上に喜ばれるなど柔軟な支援は大事で、これからも紅葉見物など合同を図って行く。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事の一つに茶市があり新館、本館合同で茶市を散策し、地域の人々とふれあい楽しいひと時を過ごして貰う等豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入所契約時に本人や家族にかかりつけ医を尋ね往診可能な条件など説明し家族主体で決めてもらい看護師と共同で主治医との関係を築き適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームには2つの協力医院があり、2週間毎に訪問診療を行い、内服薬などを持参してもらい入居者や家族の受診負担の軽減に繋げている。入居者や家族が協力医以外の医療機関を受診する希望があれば、家族の同行による受診ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入所者のケアの中で捉えた気づき等を看護師に伝え受診の必要性など話し合い、適切に受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入所者が入院された場合は連携室を通して病状の経過を尋ね早期退院に向けた情報交換を行い病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に家族へ重度化した場合のホームでの対応が可能な事の説明を行い、状態に即した他の施設への連携も視野に支援している。	ホームで看取り支援は行っていない。尚、入居者が重度化や終末期になった場合は、本人・家族・主治医などと話し合い、ホームでは医療行為はできない旨を家族に説明し、同意を得た上で支援し、本人の状態に応じて他施設への移設も支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の急変や事故発生時に備えて定期的にスタッフ会議の席で勉強会を開き実践力を身に付け看護師と共有し介護に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害対策として年2回火災、避難訓練(1回は夜間想定)、その他地震、風水害等、YouTube動画等用い勉強会を行い実践に繋げている。	河川の氾濫や地震を想定した災害避難訓練や消防避難訓練(昼・夜間を想定)を実施している。全職員が消火器による初期消火、通報、避難誘導の訓練を行っている。地域の消防署、消防団、民生委員、地域住民との協力体制を構築しており、入居者にとって安心できる暮らしを支えている。	災害時において担当する役割を全職員が理解した上で迅速に行動できるようあらためて災害時の役割分担を確認・周知することが望まれる。第1避難場所の名称(略称)や場所を全職員が認識し、災害時に家族や地域の支援者に伝えることができるよう取り組むことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の個性や人格を尊重しその方の居室に入る際は一声かけるなどまた、トイレ誘導時等はさりげない介助に努めプライバシーを尊重した介護に努めている。	居室に入室する際はノックをして入居者へ声を掛けることを徹底している。排泄誘導時には他者へ聞こえないよう声掛けして案内している。居室内にポータブルトイレを置き使用する方には、ポータブルトイレに目隠しのため布をかけるなど、入居者にとっての誇りやプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者が希望など表出しやすいように日頃の声掛けを大切に関係を築き、買い物の代行や家族への取次(電話)など希望に応え支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入所者の一日の過ごし方を把握し、その方の暮らしやすさを追求しており、日々希望に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活にメリハリをつけるために夜はパジャマに着替えてもらい朝は好みの服を準備して介助する等身だしなみに注意を払い一日を快適に過ごして貰えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員はひとり一人の好みや適切な量を把握し彩なども工夫して食事の提供を行い後片付けの食器拭きを入所者数人が職員と共に協力して行っている	ホーム近くの商店で地元の食材を購入し、職員が手作りの料理を提供している。入居者一人ひとりの好みや適切な量・形状を把握して季節感や彩りを工夫している。入居者の誕生日にはちらし寿司を提供している。職員と共に入居者もテーブル拭きや食器拭き、もやしの芽取りなどを行い食事が楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立にひとり一人の摂取量を全スタッフが共有し一日の水分量、食事量など細かく記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の洗面、口腔ケアの後、朝食、昼食、夕食後と一日4回の口腔ケアを行い、本人の力量に合った支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては出来るだけおむつの使用を減らす為、布パンツを推進しており早目の声掛け誘導を行い自立支援をしている。	職員は入居者個々の排泄状況を「排泄チェック表」に記録し、その方の排泄パターンを把握している。排泄への声掛けや誘導を行いながらトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレに排便チェック表を置いて対応した職員が記入し、便秘されている場合はNSと連携し内服薬の調整や飲食物に注意を払い支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は3日置きとしているが本人の体調や拒否など状況を踏まえた柔軟な対応を行い楽しんで入浴してもらっている。	入浴は3日に1回を基本としているが、入居者の気分や体調に合わせて随時変更しながら支援している。体調不良で入浴困難な場合には、清拭を行うなど、入居者一人ひとりの状態に合わせて柔軟に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者の生活習慣に合わせ昼寝も短時間される方もおられる。又、夜は着替えなどを含めて本人が希望される時間に居室に入られるなど気持ちに添った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが看護師と連携し服薬支援しており入所者個々の内服状況を記した物を貼り変更時も確認して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を通して活気ある暮らしを実現してもらえるよう健康体操やレクリエーション等また、無理なく出来る家事などひとり一人の力量を把握した支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者ひとり一人の希望に応え、住み慣れた自宅周辺のドライブや墓参りなど家族理解の上支援している。	入居者が希望する場所(自宅、墓参り、小学校)へ出かける「ふるさと訪問」を行っている。普段は外出できない場所にも家族や地域住民と協力して出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方が暮らす共同生活の中で混乱を招くことがないよう、手持ちを希望される方へは少額のお金を財布に入れ手持ちしてもらい安心に繋げている また、その旨を家族とも共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を希望される方へは心が通じる様なるべく自筆で書いてもらい、宛先は職員でしっかり書くなど支援し、電話は近くに誘導して本人の声を聴かせて楽しく語り合えるよう工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日を過ごす共有空間は混乱を招かないよう、光、音、明るさ、温度の調節を行い、目立つ所には思い出の写真や季節感漂う創作物など張り出し共に語り込まれている。	リビングは木材をふんだんに使用しており、窓からウッドデッキに出で外気浴もできる。ホーム内には音楽が流れ、季節の花や行事の写真などを飾り、入居者が季節感や居心地の良さを感じられるよう取り組んでいる。感染症対策として除菌・加湿機能付き空気清浄機を2台設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はテーブル席とソファ席があり気の合う者同士で過ごされるよう配置できており毎日活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家族や本人の意向を聞き入れ使い慣れた寝具や食器類、写真立て、収納ケースやテレビ等など思い思いに配置してある。	居室毎に花木の名称をつけ、室内の壁の一部を花木にちなんだ色の壁紙を使用し、明るい雰囲気を感じられる。入居者の動線に合わせた家具の配置や、使い慣れた布団やテレビ、椅子、家族の写真などを持ち込むことで、入居者が穏やかに暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は居室を区別できるよう壁面の色を変えたりトイレやふる場など混乱を招かないよう表示する等の工夫をし、安全で自立した暮らしが継続できるよう配慮している。		